



「ほほえみの会」2007年度総会が開かれ、
会は13年目に入りました。総会では06年
度の活動および会計報告が行なわれ承され
ました。また、役員継続も決まりました。
代表 池田恵一 副代表 小嶋隆
世話人 堀内雅士 鈴木啓之 杉山禎
会計 渡辺真澄
よろしく申し上げます。

<第147回 ほほえみの会 総会>
大教室で開催した総会には31名が参加しました。

三間屋医師から最近の血液腫瘍科についてお話がありました。
春に岡田医師、奈良医師が相次いで転勤となり、後任の呉医師が見え
た。6人体制が、現在5人のため厳しい状況が続いており、入院患者
に迷惑をかけていないか危惧している。全国的に小児科医が減ってい
るなかだが、優秀な医師を探していく。

長期フォローアップ外来について 三間屋医師

病気が治った後、成人になっても、地域が変わってもフォローして
いく体制作りが始まった。静岡県立こども病院を始めとする、全国
14の拠点病院がモデル病院となり連携していく。
こども病院では、毎月第4水曜日に「小児がん長期フォローアップ
外来」を開設する。これは晩期障害の予防、早期発見、治療を目的
に、治療後1年以上の方、血液腫瘍科、循環器科、内分泌科、加
えて看護師が協力して対応する。
患者の中には病名を知らない人や、小児がんであったことを忘れた
い人もいますので注意深く対応をしていく。また、こども病院は小児
病院であり、成人になった人には総合病院との連携が必要となっ
てくる。

当事者の会「Peer」 夏のキャンプ報告 柳原恵子

今年で3回目を迎えた夏のキャンプ。これまでの計画から実施、そ
してアンケート調査などの報告がありました。
事前に不安の大きかった人も、キャンプ後は本人、親ともに満足し
た結果がでた。同じ経験をした人達が出会えて、手術の傷跡を隠す
ことなく一緒に入浴できたことも良かった。
一方で、準備の時点で細かい点が抜けていたり、協力者の体制が今
一つだったり課題もあった。改善して続けたい。

柳原さんの言葉

「みんな今を生きている。それだけで幸せ。少しずつ病気をしたっ
てことを忘れがちだけど、好きなことができる。好きな人が周りに
いる。当然に感じるけど、今を生きているから。忘れたらいけない。」

特別講演「入院中の子ども達に笑いを」
ホスピタルクラウン 大棟耕介 氏

クラウンは道化師、ピエロではない。サーカスでの一番の高給取り
はクラウン。歌や踊りや楽器演奏などあらゆるスキルが必要。
クラウンの笑いはインチキをしたときの苦笑、常に客が主役、下の
立場になる。
病棟では、風船を使ったパフォーマンスや、トイレットペーパーを
使ったいたずらなど淡々で行うが、その裏ではものすごく稽古を重
ねている。それによって、空気を変える。お母さんが笑うと子供が
笑う。空気が変わる。ナースが笑う、ドクターが笑う。笑いは伝染
していく。

そんなお話しをパフォーマンスとともに楽しくしてくださいまし
た。7月にこども病院に来てくれたときも病棟の子どもたちの無邪
気な笑顔が見られ、本当にうれしそうな表情をしていました。
参加者からは他の病棟にも、是非また来てほしいといった要望も出
ました。大棟氏も、現在名古屋を中心に11の病院を定期的に訪問
しているがこども病院にも是非また来たいと言って頂きました。
「ほほえみの会」ではまた来てもらえるように病院に要望書を出し
たいと思います。

次回 は 10月 14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>